（ NO1 ）

行 政 視 察 報 告 書

令和８年　11 月　 1 日

長浜市議会議長　中川　リョウ　様

長浜市議会議員　　加納　義之

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

１．視察等名　　令和８年度産業建設常任委員会行政視察研修
２．視察期間　　令和８年１０月２８日（水）～１０月２９日（木）
３．視察場所及び目的
①広島県尾道市
「観光振興について」
②岡山県井原市
「地域農産物総合交流センター（葡萄浪漫館）について」
４．調査内容感想等

・視察の目的

広島県尾道市「観光振興について」

①歴史・文化資源の活用に関すること。②古い町並みの保全・再生に関すること。③観光振興と地域ブランド戦略に関すること。④空き家・古民家の活用に関すること。⑤住民参加・民間連携の仕組みに関すること。

岡山県井原市「地域農産物交流センター（葡萄浪漫館）について」

①農産物（葡萄）の販売拠点から多世代交流拠点へ転換した背景と戦略について②神楽・音楽フェスなどイベント開催の運営モデルと成功要因について。③イベントが地域ブランド（葡萄）と産地振興にどう結びついているかについて④若年層の参加を促すための仕掛けについて

長　浜　市　議　会

・視察内容

広島県尾道市「観光振興について」

全国でも成功した観光まちづくりの代表例として視察を行った。単に観光客を増やすだけでなく、「歴史・文化・サイクリング・景観・空き家活用」を組み合わせた観光振興を進めているのが特徴である。

1. しまなみ海道を活用したサイクルツーリズム

尾道市観光の最大の柱が「瀬戸内しまなみ海道」です。

・尾道市と愛媛県今治市を結ぶサイクリングロード
・「サイクリストの聖地」として国内外へ PR
・レンタサイクル網の整備
・サイクルオアシス（休憩施設）の設置
・国際的なサイクリングイベント開催

しまなみ海道は日本を代表するサイクリングルートとして発展し、多くの外国人観光客も訪れています。尾道市では自転車活用推進計画を策定し、観光振興と地域活性化を一体的に進めています。

2. 日本遺産を活用した観光ブランド化

尾道市は複数の日本遺産を有しています。代表的には、「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」、「村上海賊」、「北前船」などです。単なる文化財保存ではなく、ストーリー化・ガイドツアー・サイクリングルート化・多言語案内によって、観光商品へ転換しています。

3. 「坂の町・映画の町」のブランド戦略

尾道は古くから映画や文学の舞台として知られています。NHK や民放のドラマ・映画ロケ地・文学のこみち・千光寺周辺の歴史的景観などを活用し、「歩きたくなる町」を演出しています。また、フィルムコミッション活動によってロケ誘致を進め、観光 PR 効果を高めています。

4. 空き家再生による観光まちづくり

尾道の特色として有名なのが空き家再生です。歴史ある町家や空き家をカフェやゲストハウスとして活用しています。その結果、若者の起業促進、移住者受入れ、景観保

存、滞在型観光につながっています。観光だけでなく地域再生政策として高い評価を受けています。

5. インバウンド戦略

尾道市では観光団体や宿泊業者などが連携し、台湾での観光 PR、インバウンドセミナー、モニターツアー、多言語対応を進めています。特に外国人サイクリストの誘客に力を入れている点が特徴です。

6. ナイトタイムエコノミーへの挑戦

尾道市では近年、夜間観光、滞在時間延長、消費額拡大を目的とした「ナイトタイムエコノミー創出事業」にも取り組んでいます。観光客を「通過客」から「宿泊客」へ転換しようとする施策です。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

サイクルツーリズムについては、長浜市への参考点は、①琵琶湖一周（ビワイチ）との連携強化・②サイクリスト向け休憩施設の整備・③宿泊・飲食消費への誘導という点は大いに参考になった。長浜市の観光政策という視点で見ると、尾道市は、「日本遺産＋歴史的町並み＋サイクルツーリズム＋空き家活用」を一体的に進めた好事例と言えます。長浜市であれば、黒壁スクエア・北国街道・竹生島・ビワイチ・長浜城・曳山文化を尾道型の「ストーリー観光」に再編集することで、さらに滞在時間と宿泊客数を増やせる可能性があると思う。

・視察内容

岡山県井原市「地域農産物交流センター（葡萄浪漫館）について」

地域農産物総合交流センター「葡萄浪漫館」は、単なる農産物直売所ではなく、ぶどうを核とした「農業・観光・地域交流」の拠点施設です。岡山県有数のぶどう産地である井原市青野地区にあり、地域活性化の成功事例として知られています。

1. 最大の特徴は「ぶどうをテーマにした交流施設」

青野地区は西日本有数のぶどう産地であり、葡萄浪漫館では生産者が育てた

新鮮なぶどうを直接販売しています。特にシーズンには開店前から行列ができるほど人気があります。

2. 農産物直売だけではなく「交流」が目的

施設の目的は、都市住民との交流を深めながら農村地域の活性化を図ることとされています。そのため、地域イベント、ウォーキング大会、サイクルイベント、神楽公演などを継続的に開催しています

3. 観光施設としての役割

葡萄浪漫館は農業施設ではなく、観光振興施設としての側面が強く、ぶどう狩り、産地見学、地元農産物購入、地域イベント参加を組み合わせ、年間を通じて来訪者を呼び込んでいます。つまり、「農業を見せる」「農産物を買う」「地域にお金を落とす」という仕組みが構築されています。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

非常に参考になるのは、尾道市が「しまなみ海道」井原市が「ぶどう」を地域ブランドの核にしている点です。長浜市なら、ビワイチ・湖北の観音文化・発酵食文化・湖北の農産物・伊吹山系の恵みを組み合わせた「長浜農観連携交流センター」のような展開が考えられます。

例えば道の駅湖北みずどりステーションや長浜駅周辺に、地元農産物直売・発酵食体験・湖北観音案内・ビワイチサポート・地酒試飲を集約した拠点を整備する考え方は、葡萄浪漫館の成功モデルに近いものになると思う。

「単なる直売所ではなく、農業・観光・交流を一体化した施設」であることが、葡萄浪漫館の最も重要なポイントである。